

都留文科大学

同窓会報

第35号会報

発行 都留文科大学同窓会事務局

責任者 加藤一雄

山梨県都留市田原3-8-1

☎0554-43-4341



同窓會
都留文科大学

再び、被災地の復興を願って!!!

都留文科大学同窓会長

原 喜 雄



全国3万人を超える同窓会員の皆様方には、ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。また、日頃より本会発展のためにお力添えをいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

さて、東北地方に未曾有の被害をもたらした東日本大震災から5年が経過しました。昨年5月に開催された理事会において、宮城県支部より、5年前の12月に合唱団が被災地の皆様方と交流を深めた経過について報告され、本会に対して、「被災地支援コンサート」の要請がありました。席上、全員の賛同をいただきました。具体的内容については本会に一任されました。また、熊本県においても見舞金を送ることが承認されました。

12月、宮城県において都留文科大学合唱団（「第69回全日本合唱コンクール全国大会大学職場一般部門/大学ユース合唱の部」で8年連続金賞受賞、「日本放送協会賞」受賞）による復興支援クリスマスコンサートが開催されました。「あれから5年」復興への一歩は踏み出したばかりです。支援活動は風化し始めていると言われていた今、「今こそともに復興に向けて力強く生きていこうとする火をさらに大きく灯していこう」という目的のもと再び開催されました。

12月17日（土）午前4時30分、合唱団員、合唱団顧問、同窓会役員、大学本部、60名余が女川町立女川小学校をめぐり出発しました。12時に到着したところ、支部の皆様の大歓迎を受けました。体育館において、女川町教育委員会教育長も参加する中、子ども、保護者とともに地域の方々にも参加していただき、「続ける力が心を紡ぐ『復興支援コンサート』～子どもたちの未来のために～」が行われました。児童から「来年も来てください。」という感想発表がありました。合唱の力を感じながら交流を深めることができました。

12月18日（日）早朝、大川小学校を訪れました。現地において、犠牲になられた方のご冥福をお祈りしました。その後、石巻市立大須小学校において、「復興支援コンサート～子ども

の未来のために～」が行われました。コンサート後、昼食「もちバイキング」を食べながら、学生と地域の方々との交流が図られました。最後に、地域の方々からは、「日本一！すばらしい合唱。」「力をいただきました。がんばります！」「大須にいる人間のつながりの大切さを、80年以上生きてきて、今改めて感じました。」「若いエネルギーを注入していただき、ありがとうございました。」等、たくさんの言葉をいただくことができました。

午後2時、合唱団員は、宮城県支部の方々のアーチで送られ、バスに乗り込み都留市に向かいました。帰りの車中、学生から感想発表がありました。

「これからの人生で、忘れられない出来事。」「テレビで見ただけだった。見なければ分からないと思った。それ以上に力をいただいた。」「復興という言葉が軽々しく消費されている。全然復興ができていない。見直す機会をいただいた。」「温かく迎えていただいた。そして、歌わせていただいた。」

2日間のコンサートを終え、20時30分都留文科大学に到着しました。

「あれから5年」復興への意識が薄れていく中での実施の難しさがあがりながら、児童・生徒及び保護者を含め地域を挙げての復興支援コンサートが行われました。コンサートに至るまで、実行委員会を中心に事前打ち合わせ、関係機関との連絡、何よりも12月の忙しい中での協力者、当該校の職員総力を挙げての体制づくり等、ご苦労いただきました宮城県支部の皆様感謝申し上げます。私自身、このコンサートに参加させていただき感じたことは、復興支援コンサート実現の大きな原動力は、大学及び同窓会相互のつながりにあると改めて実感いたしました。

今年度、長野県支部総会、神奈川県支部総会に出席させていただきました。どの支部においても、諸先輩や後輩の大学への熱い思いに触れ、都留文科大学及び同窓会の今後の発展を確信いたしました。

現在、全国で39支部が設立されております。全国47都道府県の全てに支部が設立されるまで、今一步のところとなりました。

我が都留文科大学同窓会員は全国47都道府県に在住し、地域や各界で活躍し、全国的なつながりを持っております。その強みを生かし、同窓会の目的である「大学の発展への寄与」そして「会員相互の親睦」のさらなる実現に向けて、同窓会の知恵と力を結集した取組を行って参りたいと考えています。

皆様方のご理解とご協力をお願いし、挨拶とさせていただきます。

都留文科大学同窓会役員

役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科
名誉会長	福田誠治	学長	茨城支部長	長岡省一	S55英	滋賀支部長	松嶋孝雄	S46初	理事	一之宮英文	S51初
会長	原 喜雄	S53初	群馬支部長	齋木雄造	S52国	広島支部長	小谷桂司	S44初		一瀬英治	S46国
副会長	桐井幸雄	S32初	埼玉支部長	西 敬	S56初	鳥取支部長	山本英明	S49初		若林四郎	S31商
	加藤一雄	S53初	千葉支部長	川名和則	S51英	島根支部長	小藤 貢	S44初		小田切道之	S43初
	柏木精一	S57初	東京支部長	松本多加志	S44初	岡山支部長	原田直樹	S45国		作地 真	S46国
	杉中康平	S59初	神奈川支部長	松下登志男	S41国	愛媛支部長	谷川忠孝	S42初		奥脇隆樹	S45初
庶務会計	小幡哲明	S56国	山梨支部長	水上昭夫	S39国	徳島支部長	小倉健司	S53英		鈴木 茂	S53初
	河端雄一	S63初	静岡支部長	臼井 泰	S46国	高知支部長	前田志郎	S48初		石田一元	S55初
	小林泰憲	肄 齋 齋	長野支部長	堀内敏明	S54初	長崎支部長	平山繁壽	S44初		顧問	奥秋順作
事務局長	鈴木 守	S55初	岐阜支部長	山本吉朗	S40英	熊本支部長	永田好文	S47初			志村武男
事務局次長	浜元亮吉	S39国	新潟支部長	池原栄一	S50初	宮崎支部長	取附義弘	S51初	後藤 敬		S33商
	外川正純	S46英	富山支部長	高木要志男	S51初	鹿児島支部長	本田武久	S43国	佐藤唯一		S32初
	渡辺正司	S63初	石川支部長	西田良治	S49国	沖縄支部長	比嘉正夫	S53英	佐藤英雄		S38国
	原田裕太	H 7初	福井支部長	荒木基裕	S53初	北海道	山本洋嗣	S56国	輿石 東		S32初
監 事	淡野香百合	S39初	愛知支部長	長尾 隆	S56初	山梨県	鎌田 清	S47初	山縣永良		S39国
	相川洋子	S52英	三重支部長	福田和幸	S45国		兵庫 赤穂栄一	S40英	勝俣武男		S41初
理事(支部長)	北海道支部長	加藤佳栄	S55英	奈良支部長	岡田善英	S45初	山梨 松土仁郎	S44初	永田清一		S46国
	岩手支部長	小山田厚	S54国	和歌山支部長	前田 忠	S45初	石井正巳	S51初	小林孝次		S46英
	山形支部長	佐藤英樹	S60初	大阪支部長	山本誠一	S54英	丸山一彦	S52初	千野文雄	S48英	
	宮城支部長	菅原義之	S57初	兵庫支部長	渋谷訓生	S41英	岩間好久	S55初	亀田孝夫	S51英	
	福島支部長	大竹豊紀	S39初	京都支部長	栢谷雄三	S44初	笹本忠彦	S62英			

国際バカロレア

都留文科大学学長

福田 誠治



都留文科大学は、2016年11月に国際バカロレア機構の認定を受け「国際バカロレア・ユニバーシティ」を名乗ることができるようになった。国際バカロレア機構は、スイスのジュネーブに本部があり、国際版大学入試を運営している。それならば国際的難関校に合格するためのエリート教育かと、誰もが考える。しかし、大方の予想に反して、国際バカロレア教育の歴史は、テストのための授業から教育を解放することに向けられてきた。

国際バカロレア教育は、高校2、3年の2年間だけが6教科で組まれるが、教科外（教科横断的）にTOK(知の理論)、課題論文、CAS(奉仕活動、健康活動など)が必修となる。

幼稚園から高校1年生までは教科の枠は固定していない。したがって教科の点数というものは出てこない。小学校では、算数ははっきり分けてあるが、主要教科は探究の単元に合体させてある。演劇という科目が置かれるのが普通だ。学ぶ内容は、「私たちは何者だろうか」「私たちはどのような場所と時代に生きているのか」「私たちはどう自己を表現するのか」「世界はどう動いているのか」「私たちはどう自己を組織するのか」「地球を共有すること」の6テーマである。どんな知識を教えるかは、それぞれの学校で決める。

小学校の最終学年には、各自が学んだことを披露する「発表会」がある。

中学校・高校1年生は、教科に分けて授業が行われるが、どの知識をどの教科、どの科目で教えるかはそれぞれの学校に任されている。教科は、言語A（母語、文学を含む）、言語B（外国語）、個人と社会（歴史、地理、環境システムなど）、実験科学（物理、生物、化学、総合科学、環境システムなど）、数学、芸術、デザイン（ICTなど）、体育の8グループで構成される。グループ内には複数の科目があり、各教科をバランスよく学ぶ必要がある。最終学年になると個人プロジェクトを完成させ、展示する。

1937年のこと、民俗学者の柳田国男が、旧制高校生という当時のエリートに向かって『平凡と非凡』という講演を行っている。近代ないし産業社会は、非凡という優れた能力を期待するが、前近代の社会は平凡という普通のカンこそが大切だった。普通とは誰もが身につけるべきもので、一定の習得があれば「一人前」と評価された。しかしこの能力は、序列や競争の対象にはならなかった。誰もが身につければそれでよかった。平凡なこと、普通のこと、子どもたち自らが長い時間をかけて、生活の中で学んでいくものであり、逸脱した場合にのみしかるという教育方法が使われたという。

エリートを目指していても普通の人間になることを怠るなど、柳田国男は論じた。今の日本に世界標準の国際バカロレア教育を入れてみることは、競争やテストにとらわれない日本人の誰にも必要な「普通教育」があるのか、それは何かを問い直すことだと思っている。

平成28年度 都留文科大学同窓会都道府県別会員数

No	県名	会員数	No	県名	会員数	No	県名	会員数	No	県名	会員数
1	北海道	602	13	東京都	1,283	25	滋賀県	108	37	香川県	149
2	青森県	233	14	神奈川県	1,243	26	京都府	238	38	愛媛県	292
3	岩手県	543	15	新潟県	640	27	大阪府	470	39	高知県	80
4	宮城県	574	16	富山県	620	28	兵庫県	824	40	福岡県	221
5	秋田県	242	17	石川県	594	29	奈良県	91	41	佐賀県	81
6	山形県	332	18	福井県	518	30	和歌山県	185	42	長崎県	196
7	福島県	745	19	山梨県	3,745	31	鳥取県	156	43	熊本県	189
8	茨城県	444	20	長野県	1,138	32	島根県	230	44	大分県	110
9	栃木県	475	21	岐阜県	531	33	岡山県	392	45	宮崎県	149
10	群馬県	349	22	静岡県	1,476	34	広島県	468	46	鹿児島県	334
11	埼玉県	546	23	愛知県	1,191	35	山口県	165	47	沖縄県	213
12	千葉県	583	24	三重県	378	36	徳島県	400	48	外国・不明等	8,229
										合計	32,995

■ 支部設立済都道府県

「就任11か月が過ぎて」

都留文科大学理事長

横内 正明



同窓会の皆様には、日頃本学の発展のために様々な面でご支援をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。とりわけ、昨年度には、国際交流会館の建設に多額の寄付を賜りましたが、おかげで国際交流会館は立派に完成し、48名の外国人留学生及び日本人学生が共同生活する中で双方の文化理解に大きな効果を発揮しております。

さて、私が大谷哲夫前理事長の後をうけて理事長に就任して早11か月が過ぎました。この11か月間に印象深く感じたことを申し上げますと、第一は本学の改革意識の強さであります。

今後、大学間の生き残り競争が激化し、また、大学入試制度の改革に伴い本学が開拓した地域分散型入試が困難になるなど客観情勢が厳しさを増す中で、学長以下多くの教職員が危機感を共有し、前向きに学部学科改編などの改革を進めていることは誠に心強い限りです。

第二は、本学卒業生の評価の高さであります。

私は理事長就任以来、教育関係者や企業関係者に会ったときは必ず都留文大卒業生の評判を聞くことにしていますが、総じて本学卒業生は「まじめで努力家だ」といった好評価が返ってきます。これも菁莪育才

の伝統の下に質の高い教育が行われている成果でありましょう。

今後5年10年の間に都留文科大学は大きく変わります。4月から国際教育学科が発足し、8月には同学科の新講義棟も完成します。国際バカロレアというスイスで発足した世界共通の教育プログラムを我が国でも普及させようとする文部科学省の方針を受け、それを教えることのできる教員の養成を主たる目的とするものであり、我が国の大学ではトップをきって学科を設立するものです。

30年4月からは、教養学部が設立され（現在は文学部のみ）、その下に初等教育学科を改編して学校教育学科、及び社会学科を改編して地域社会学科が設置されます。

31年度半ばには、大学の北側にある県合同庁舎の敷地及び建物が都留文科大学に移管されます。本学の将来の発展に必要なゆとりあるキャンパスづくりを可能にしてくれるでしょう。

同じ頃には、大学の西側に隣接して都留市CCRC構想（生涯活躍のまちづくり）が動き出しています。これは都会の健康な中高齢者を呼び込んで第二の人生を地域と交流しながら送ってもらうものであり、本学も積極的に参画します。例えば、本学の教員が生涯学習の講師になったり、逆に学生が多様な人生経験を持つ中高齢者と交流することによって、自分の進路を考える糧にしたりウインウインの関係を築きたいものです。

同窓会の皆様には是非とも折に触れて母校を訪れていただき、大学の変化を見守り、ご支援くださいますようお願いいたします。

都留文科大学のジェンダー教育とダイバーシティ

都留文科大学退官教授 社会学科

野畑 真理子



豪雪地帯で知られる上越で5年勤務した後、1992年に本学に着任してから25年が過ぎ去ろうとしています。私は長年、日本の働く女性が直面する問題を企業経営の特質との関連で研究してきました。しかし、1986年に男女雇用機会均等法が実施され、1999年には男女共同参画社会基本法も成立し、施行されても、職場における男女平等（ジェンダー平等）はほとんど進みませんでした。一方、米国では管理職中の女性比率が50%弱であり、その理由を探ることによって日本への示唆を得たいと考えようになりました。移民の国である米国では2000年代にはすでにジェンダー平等を超えて、ダイバーシティやワーク・ライフ・バランスなどの考え方が社会で共有され、企業も率先して取り組んでいました。日本政府も近年、ダイバーシティや「働き方改

革」を奨励するようになり、日本企業も昨年頃からジェンダー平等、ダイバーシティや「働き方改革」をどのように進めるかを真剣に考え始めたようです。これからも日米の取組みを比較研究しつつ、日本のダイバーシティが経済中心の偏狭な取組みに陥らないよう見守りたいと考えています。

本学の特長の一つは、日本の大学では非常に早い2005年に女性教員たちの協力によってジェンダー・プログラムを開始したことです。学生たちの関心も高く受講希望者が多いため、一時は入門科目を3クラスに増設しなければならぬほどでした。私が担当したジェンダー科目では、地域で男女共同参画推進活動をしているグループの方々にもご協力いただき、パフォーマンスやディスカッションを通して学生たちにジェンダーを身近な問題として理解してもらえよう工夫しました。学生たちからもっと早くジェンダーの授業を受けたかったという声もありました。本学の貴重な財産であり、受験生にもアピールできるジェンダー・プログラムを今後も発展させてくださるようお願いしています。

本学の第二の特長は学生が全国から、さらに海外から集まっていることです。このようなダイバーシティな学生たちと勉強することはとても刺激的なことでした。

活躍する同窓生

「母校へ感謝」

廣瀬 義仙

(昭和39年度 国文学科卒業)



昭和43年、父の他界により高野山真言宗宝寿院住職を拝命した。現在も36世として法燈を受け継いでいる。

大学時代を回顧すると、とてもとても他人に自慢出来るような学生ではなかった。高校時代野球部に所属し、三年間頑張ってきた、山梨県立市川高校は、野球偏差値0のチームであった。しかし私達の学年の時、秋の県大会新人戦、春の大会はそれぞれベスト4に、夏の選手権大会はなんと決勝まで勝ち進み、もう一步で甲子園への道をたれた。そんな縁で都留文科大学に入学した時から市川高の学生監督となり指導してきた。片道三時間かけて家から通い、三時限が終るとすぐ富士急行に乗り母校に駆けつけた。こんな生活を送ったため、しっかり勉強も出来なかった。ただありがたいことに多くの仲間・後輩が助けてくれ、かろうじて卒業証書を手にすることができた。昭和40年4月国語教師に採用されると同時に、野球部監督を辞めた。以後異動を重ね、昭和59年市川高校に配属になった。

「よし、必ず母校を甲子園に導くぞ」と心に誓う。

しかし自分一人の力では甲子園には行けないと思っていた。すぐ教え子の「渡辺文人・金丸正明」を呼びつけ、「三人で母校を甲子園に導こう」と固く手を握りあった。市川高は小さな町の小さな高校である。当時の高校入試は小学区制がしかれ、学区以外の選手を獲得することが出来なかった。だが私達三人は「ブリキも磨けば銅になり、銅も磨けば銀になり、銀も磨けば金になる」を合言葉に、鍛えて、鍛えて、鍛えぬいた。もちろん合宿所の施設もなく、毎年5人ぐらいを自坊に泊めた。帰宅後の練習は本堂の真っ暗闇の中で、線香のとぼれ切るまでシャドーピッチング、素振りをさせる。終わるとある者は学習塾に、それ以外は本堂で勉強する。こんな毎日であったが、3・4年経っても結果がついてこなかった。ある雨の日、休養も練習の中だと思い全ての者を家に帰した。私も家に帰り本でも読んでみるかと思い「空海のことば」を手にした。どの内容も素晴しかった。特に胸をうたれたのは「福智の因を積んで、しかるのち、無上の果を感致せよ」の名言であった。(世の為、人の為善行を積んで、そののち最高の結果を得なさい) 目から鱗が落ちた。「そうか、我がチームに欠けている

のはこれだ」と思い、すぐ二人に「早朝練習のかわり全校のトイレ掃除をするぞ」と呼びかけた。一ヶ月・二ヶ月選手は不承不承で掃除をしていた。三ヶ月が過ぎた頃、選手に大きな変化があらわれてきた。グラウンド・部室の掃除は下級生が行っていたが、この頃から三年生を先頭に全員でするようになった。指導者に叱られた後など皆で話し合いをし、しきりに慰めあっていた。多くの先生・クラスメートから「ありがとう」と誉められ、必要とされる人間の嬉しさを感じとっていた。すなわち、(1)人の痛みがよくわかり、(2)チームワークがよくなり、(3)自分自身に自信がついてきた。この辺から私学の強力チームと対戦しても、常に五分五分の試合が出来るようになった。「よし、これはいけるぞ」と思った矢先、昭和62年2月4日、自坊が火災にあい全焼してしまった。焦土に立ち涙を流し続けて三日目、中一の息子から手紙をもらった。「お父さん、甲子園の道を諦めないで、一緒に甲子園で校歌を謳おうよ。涙を流しているお父さんは嫌いだ」と背中を押された。寺の再建・甲子園の夢を抱えて再び一步を踏みはじめた。二年後檀家さんのご支援を頂き、落慶式を迎えることができた。一方平成2年秋季山梨大会で優勝、さらに関東大会でも初優勝をはたす。その結果、翌年2月1日第63回全国選抜大会の出場が決定した。2回戦地元の浪速高と対戦3対1で勝ち、念願の初勝利である。いよいよ校歌斉唱。夢が真夢になり、涙があふれ声が出なかった。3回戦宇都宮学園、9回裏まで2対0で負けていた。しかしその裏3点をとり逆転サヨナラ勝ち。準々決勝桐生一高、延長11回表2対1で負けている。再び2点をとり勝利、「ミラクル市川」と讃えられた。準決勝では力尽き広陵高に負けてしまった。市川高に在職して17年間、私学の強豪がひしめく中、小さな町の小さな高校が春夏あわせて甲子園に5回出場でき、10勝5敗の成績を遺せたのは「我が人生悔いなし」である。現在は高野山真言宗、総本山金剛峯寺(責任役員)財務部長として重責を負わされている。こうして75年、有難い人生を送ることが出来たのは全てが全て、名門都留文科大学で過ごさせて頂いたお陰である。残された人生、母校への感謝の気持ちを忘れず、少しでも世の為、人の為、「善行」を積んで、社会の一隅を照らす人間になりたいと思っている。



活躍する同窓生

「文大での経験と オーガニックの可能性」

宮入 広光

(平成23年度 初等教育学科卒業)



卒業してから5年が経とうとしています。私は自然栽培という身体に有害な肥料や農薬を用いない農業を行っております。この5年間はとても目まぐるしい日々でした。というのも、今の仕事を通して、自分のライフスタイルのあり方や価値観が大きく変化した日々でした。

そもそも、入学当時、小学校の先生になりたくて希望にワクワクしていた私でしたが、本学での4年間はとても長く、様々な出会いと経験があって、私を農業の世界へ向かわせたのでした。

本学は、豊かな田園地帯に在し、学生が地域に溶け込んで活動するというユニークな特徴があります。同級生の中にも、空き家を改修してコミュニティの場にしたり、郷土野菜の水掛菜の栽培に取り組む仲間がいて、自分でも農業がしてみたいと思う環境がありました。そこで私は仲間とサークルを立ち上げ、地域の人から耕作されずにいた農地を借り、地元の農家の方に教わり、無農薬の大豆づくりを始めました。これがとても面白くて、発芽した種から芽が出て、若葉が躍るといいますか、突然急成長したり、収穫前のお豆の姿なんか全く想像もつかない姿だったり。翌年からお米や野菜づくりも始めました。ハラハラ、ドキドキしたり、こんなにアグレッシブな芸術は他にないと思いました。実は、この活動が現在の営農のモデルになっています。

価値観を共有したり、意見をぶつけ合える仲間や応援して下さる先生方、とても豊かな郷土にある大学の存在、今思うととても幸せな環境に学べたのだと思います。特に農業に特化すると、都留の農村は山間の狭小な立地性ゆえに、競争や破壊性が少なく比較的豊かな農村ではないかと思えます。

現在、自然栽培という無肥料、無農薬のお米と大豆、枝豆を中心に営農しています。この農業の特色は、人為的な操作を極力行わず、自然を尊重するところにあります。この観点、スタンスがこれからお話することの源流になります。

そもそも自然は「しぜん」という言葉の通り、全てが存在する全能の存在です。雑草は何を施さなくてもあのように力強く生きています。一つ一つが役割を持って生きています。お米や野菜も同じでお米や野菜が育ちやす

い環境にあればグングン育ちます。そして、作物自身が土を変えてくれます。自然にはそもそも全てが備わっていて、人々の空腹を十分に満たしてくれるだけの生産性があります。

しかしどういうわけか人は何かしががります。何かをするという行為は、何かを求めるがために行われるわけですが、その行為を試すために、試すための行為をも行わなければならない、さらに、0(ゼロ)に1(イチ)を+(プラス)したために、自然界は元に戻ろうとする作用があるので、その作用を封じ込める対策として、さらなる行為を必要としてしまうのです。こうなると、人間は自然と対立してしまうのです。人間は全く自然に反発して、出口のない問題に悩み続けなければならないのです。

そもそも、土には有り余る程の栄養があるのですから、人間が肥料を施す必要はなかったのです。牛や豚の汚物を肥料だと言って一生懸命に田畑に入れる人がいますが、その行為は汚物をまき散らしているわけですから、全くいいわけがありません。大昔は人間の排泄物まで入れていたというのですから、大きな間違いを行ってきていたのです。化学肥料も確かに収量は増えるのですが、そんなものをまき散らさなくても、お米も野菜も立派に採れます。

また、収量を上げるために肥料を過剰に投入したり、農薬を散布すると、土壌や回りを汚したり、人間にとっても薬害が発生するわけです。日本でもアレルギー、アトピー、不妊、精神疾病、etc様々な人体の反応が出ています。これらは食事を正しくすることと、環境への対応で多くは改善できるものです。しかし、この症状を多くの方は病院に行って薬の処方で解決しようとしします。すると、根本の問題が解決されないばかりか、社会保障費が莫大となり、働いても働いても借金だらけとなってしまいます。これは、根本の自然というすべてが偏っているものに対して見る目が間違っていたためではないでしょうか。

自然栽培(農法とも)は、自然に順応することを大切にするために、肥料も農薬もやりません。極力機械も使いません。ですから、食事療法をやられる方はアトピーが改善します。医療にお金を使うより、食事を大切にするほうがよっぽど経済的です。

今、オーガニックの世界はどんどん大きくなっていきます。この広がりや良さは単なる消費行為ではなく、ライフスタイルの変化を促し、本来あるべき姿、働き方にまで結びつくところにあります。



「花のかげ」のもと、母校に思いをはせるひと時

北海道支部長 加藤 佳栄

昨年度の帯広での開催の余韻が冷めやらぬ中、今年度の総会・懇親会が8月6日(土)札幌で開かれました。会場のホテルサンルート札幌には、道内各地から総勢17名が集い、にぎやかな中で会が進みました。また、昨年に引き続き今年も同窓会本部から桐井幸雄副会長(昭和32年初等教育)にわざわざ足をお運びいただき、会に花を添えていただきました。

例年総会後に行われる講演会では、今回は「函館生まれの太田育ち」と題し、長坂 隼 様(昭和37年初等教育)よりお話をいただきました。ご自身の半生を振り返り、ご家族とのこと、戦争体験のこと教員生活のことを語っていただきました。当時の写真や資料をお持ちいただく中で、生まれ育った地元やご家族への深い思いが詰まったお話をいただき、一同長坂先輩のお人柄とお話に引き込まれたあっという間の45分間でした。

その後の懇親では、桐井様に現在の同窓会の状況、大学の近況についてのお話をいただく中、盃を介しながら各々の在学時の思い出や同窓生の近況等に大いに花が咲き、会が深まり、尽きぬ話はその後の2次会へと続きました。

桐井先輩には「地区によっては2年に1度の開催の中、北海道の毎年開催には敬意を表します」とのお言葉をいただき、今後の開催に向けて益々の励みとなったところです。

結びに全員で声高らかに校歌「花のかげ」を歌い、「桂友会」の合言葉のもとに次年の再会を期し本年度の会を閉じました。

なお、次年度の総会・懇親会は平成29年8月4日(金)を予定しています。たくさんの方の会員の参集を期待しております。

平成28年度、29年度役員

Table with 4 columns: Position, Name, Graduation Year, and Field. Lists members for various roles like 支部長, 副支部長, 事務局長, etc.

第12回「べにばな会」総会開催

山形県支部長 佐藤 英樹

全国の同窓生の皆様方におかれましては、ご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。

このたび、平成28年12月3日(土)に開催されました総会におきまして鈴木雄二前会長の後任として指名をいただき、第5代会長を務めさせていただきますことになりました。教員以外の者が会長を務めるのは初となりますが、同じ昭和60年度卒の白林・原田両副会長の協力を頂きながら教員採用試験の情報提供等について対応していきたいと考えております。よろしく願います。

平成5年に設立された山形県支部同窓会「べにばな会」も今年で23年目を迎えることができました。山形県内を4つのブロックに分け、2年に1回の総会・懇親会を持ち回りで開催してきており、今回で12回目となりました。近年は集まりやすさから山形市内での開催が多くなっており、今回も最上地区の担当ではありましたが、会場は山形市内の「ホテルニュー最上屋」での開催となりました。

総会では、事業報告、新役員、予算決算の承認、今後の活動の方向性等について活発な質疑がおこなわれました。また、創立60周年記念式典に参加いただいた武田顧問より記念式典の様子等について報告をいただきました。

懇親会では、参加者の皆さんから「思い出の都留・思い出の人」をテーマにスピーチをいただき、下宿、アパート、部活、先生、恋愛や武勇伝等のなつかしい都留での話題で大いに盛り上がり、楽しいひと時を過ごすことができました。

次回総会は平成30年11月に村山地区の担当で開催を予定しております。設立25周年の節目を迎えることとなりますので、多くの会員の皆さんに参加いただき、「べにばな会」の更なる発展につなげて

いける機会となるようご協力願います。

平成29・30年度役員

Table with 4 columns: Position, Name, Graduation Year, and Field. Lists members for roles like 顧問, 会長, 副会長, etc. across different regions.



すばらしき都留の仲間たちとともに②!

宮城県支部長 菅原 義之

今年度も都留の仲間とともに、充実したときを、楽しい思い出をつくることができました。

一つは、都留大合唱団による被災地支援コンサートの開催です。12月17日(土)女川小学校、18日(日)石巻市立大須小学校で、合唱団の素敵な歌声や想いを被災地の方々に届けられ、帆立や牡蠣、餅を食べながらの深い交流活動も行うことができました。清水先生始め合唱団、そして同窓会や大学からの強力なご支援・ご協力に御礼申し上げます。

二つ目は、本支部会の名誉会長 鎌田光彦氏が、春の叙勲において「瑞寶雙光章」を戴いたことです。このことは、本支部会にとっても名誉なことであり、誇りでもあります。8月10日(水)に「叙勲を祝う会」を開催し、多くの仲間と和やかな雰囲気の中で、心いくまで祝うことができました。

その他、「教員採用選考対策学習会」を4回実施し、都留大現役・OB併せて、合格者3名を出すことができ、また、平成27年度支部総会では、前同窓会長の亀田孝夫様にご臨席賜り、参加者59名で盛大に開催することができました。

結びに、同窓会会長、学長、理事長、そして全国の同窓生の皆様からの温かいご支援に深く感謝申し上げます。

<平成28年度役員>

名誉会長 鎌田光彦 鎌田 清 小野俊次 千葉龍成 菅野俊雄

Table with 5 columns: Position, Name, Graduation Year, and Field. Lists members for roles like 顧問, 支部長, 副支部長, 事務局, 会計, etc.



茨城県支部の近況

茨城県支部長 長岡省一

同窓生の皆様におかれましてはご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成28年4月より宮内健治前支部長の後任として新支部長になりました。よろしく願いいたします。(昭和56年3月英文学科卒業)

5月に、私の勤務校(県立勝田高等学校)において、宮内健治前支部長と共に同窓会茨城県支部の運営や次回総会の実施時期等の協議を行い、関係文書の引き継ぎを受けました。しかし、それ以外は私自身が校務や私事に追われ、支部会員の方々と交流する機会を設けることができなかつたことを、大変残念にそして申し訳なく思っております。来年度以降支部活動が活性化するように全力で取り組みたいと思っております。

さて、ご承知の方も多くいらっしゃると思いますが、10月に発表された都道府県魅力度ランキングで、茨城県は4年連続最下位となりました。しかし、本県県民の多くは、気候・風土、自然、科学技術、歴史・文化、人間性、農産物・海産物等いずれ

も他県に劣らず誇らしく思っています。また、平成29年4月から、有村架純さんがヒロイン役を演じる、本県を舞台にしたNHKの連続テレビ小説「ひよっこ」が始まります。県内外で現在順調に撮影が進められており、今後本県が注目されることを期待しています。同窓会員の皆様には是非本県に来県いただき、茨城の魅力に触れていただきたいと思います。

最後に、今後も支部会員同士の交流の輪を広げ、活発な活動を行っていただけるよう支部の充実に努めて参りますので、支部会員各位のご協力をお願いいたします。

- 顧問 宮内 健治(昭52国)
○支部長 長岡 省一(昭56英)
○副支部長 井坂 雄爾(昭61初)
○理事 武田 真一(昭57英)
○理事 新井田由美(昭62英)
○理事 石川 順子(平元国)
○理事 野口 修(平元英)
○顧問 関野 昌彦(平6英)
○理事 赤荻佐知子(平8国)

教員採用試験対策事業・支部総会を開催

群馬県支部長 齋木雄造

群馬県支部では、平成28年8月21日(日)午前10時より高崎市労使会館で教員採用試験第2次選考に向けた模擬面接会を開催しました。参加した4名の学生のみなさんの取組は、実に真剣でした。当日は、高崎市の中学校教諭、柴崎健吾先生(平成27年度卒業生)のご講話もいただき、参加者からは「教員としてどう生きていくかまで考える機会にもなった」という声を聞くことができました。

また、同日、午後6時から、ホテルメトロポリタン高崎で第8回支部総会を開催し、特に総会・懇親会の隔年開催について協議、承認いただきました。懇親会では、それぞれの都留を語り合いました。

第9回総会・懇親会は、次のとおり開催します。

- ・日時 平成30年8月19日(日)17:30
・会場 高崎ワシントンホテルプラザ

〈群馬県支部役員〉

- 支部長 齋木 雄造(昭53国)
副支部長 熊川 稔(昭50英)
原 俊明(昭60英)

- 事務局長 島田実恵子(昭45初)
監事 金沢 和子(昭55英)
土屋 勇(昭58英)
庶務 池澤 博子(昭57初)
安藤 貴子(平6初)
江原 悠一(平11英)
古川 整(平12社院)



新たな使命を担った都留文大への支援づくり

千葉県支部長 川名和則

都留文科大学創立60周年式典が懐かしく、つい先日実施されたように感じられる程、私にとっては、時間の経過が早いものです。その記念式典で、福田学長から、新たなグローバル時代において、世界的に評価の高い「国際バカロレア(IB)の教育プログラムに対応した日本で初めての教員養成課程を導入したい」旨の挨拶がありました。

そして今、その夢を叶えようと、新たな『国際教育学科』の門を叩く、フレッシュで意欲旺盛な学生たちが、都留の街に集まり出したことに、同窓生として感激しており、世界に羽ばたくクリエイティブリーダーが、数多く巣立つことを期待しております。

千葉県支部の取組は、大学側主催の現役学生への指導に、4月と5月に大学を訪問し、現役学生と直接面談し、千葉県志願や採用状況を踏まえ、志願書の書き方や自己PR等もアドバイスをいただいております。

8月中旬には、千葉県教員採用試験二次対策講座を今年度も2日間にわたり開講し、多くのOBが講師として、受験生を指導してくれました。深く感謝申し上げます。

また、ここ数年、都留文大卒業生が、数多く千葉県内に採用されておりますので、3月末に、新採用学生を囲んで、先輩教員との懇談会も実施しました。

4月から順調にスタートを切れることと、メンタルヘルス

ケア対策の一助として実施いたしました。

このように、支部としてはまだまだ微力ではありますが、更に『指導力と人間力溢れる都留文大生』を育成していかなければならないという責務を感じております。

また、『道の駅つる』(都留市大原)が、昨年、リニア見学センター近くにオープンしたこと、誠にめでたうございます! 順調な滑り出しで、特に富士湧水ポークが美味であるとのホットな情報も届いております。

道の駅では、全国組織を有する本学同窓会の各県支部と連携して、支部がお薦めする産物を、「期間限定のリレー方式」で、販売できる体制を模索中だそうで、第1弾として昨年12月末、静岡県支部推薦の「干物詰め合わせ180セット」が販売され、好評を得たと伺っております。

『道の駅つる』が、富士山観光のゲートウェイの拠点地として、「新たな都留文科大学をアピールできる効果」も、大いに期待されています。

北海道から沖縄までの日本全国、約3万人の都留文大卒業生を抱えた39支部が知恵を絞り出し合い、『都留市』並びに『都留文科大学』が、更に発展できる支援体制づくりをしていこうではありませんか。



東京都支部の近況

東京都支部長 松本多加志

今年、熊本県、鳥取県、福島県で大きな地震があり被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を祈念いたしております。

さて、同窓生の皆様方におかれましてはご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。

今年も東京都の教師を目指す本学の学生を対象に第2次試験に向けた面接練習会を8月13日(土)に実施しました。真面目な学生達でしたが、反省会では、例年同様もう少し自分の主張を強く打ち出すことが必要ことが話題となりました。受験生の今後の課題です。また、参加者は、8名で減少傾向が見られ、東京都の魅力を増やすことが本支部の課題ともなります。そして、練習会にご指導いただいた現職の校長先生は、大中勲(52年卒:英)・岡部ひとみ(52年卒:初)・山崎聡(60年卒:初)・高橋徹(61年卒:初)・田村聡(61年卒:初)の方々です。ありがとうございます。このことは、今後の東京支部の発展に繋がるものと信じております。

2020年のオリンピック・パラリンピックに向け、東京都で

は、指導者やアスリート等を都内の学校に派遣し、幼児・児童・生徒との直接交流を通じて、子どもたちがスポーツの素晴らしさを実感し、夢や希望持ち続けられるよう、「夢・未来」プロジェクトを立ち上げています。本年度は、約200校で実施されています。

目的は、オリンピック・パラリンピックの理念や価値を理解し、スポーツへの関心を高め、夢に向かって努力したり困難を克服したりする意識を培い、進んで平和な社会や共生生活の実現に貢献できるようにすることです。成果を期待しております。

〈平成28年度 東京都支部役員〉

支部長	松本多加志(昭44)
副支部長	黒田 賀代(昭32)、長沢 和子(昭43) 橋本 秀夫(昭44)
庶務	奈良 覚(昭45)、榛原 紀子(昭58) 田村 聡(昭62)、西村 学徳(平12)
会計	矢野 優(昭47)、高野 明彦(昭49)
会計監査	松田 篤郎(昭42)、泉 宣宏(昭47)
相談役	桐井 幸雄(昭32)、小林わか子(昭31) 福元 弘和(昭42)、岩木 晃範(昭42)

神奈川県支部総会を開催

神奈川県支部長 松下登志男

神奈川県支部では、11月19日に相模原教育会館を会場に、支部総会・記念コンサート・懇親会を開催しました。当日は原喜雄会長、福田誠治学長にご臨席をいただき70名の出席を得て議事が進行されました。会務・会計報告、規約の一部改正、役員を選出、今後の計画などについて、原案通りの決定がなされました。

記念コンサートには、懐かしの母校都留文科大学のマンドリンクラブに出演していただき、美しい演奏に聴き入りました。会員の中にはマンドリンクラブのOB・OGも多く、往時を思い出して感動感激の様子でした。

今回の総会は、短大第1回の卒業生から昨年春に卒業した方まで参加者の年齢層が幅広く、また、教員だけでなく一般企業に勤務されている方や、行政書士、公務員など職の幅も広がったのが特徴でした。懇親会ではそうした方々からもお話をいただき、大変和やかで温かい雰囲気の中で交流を深めることができました。

今後は、約2,000名と思われる会員の掌握に努め、会員名簿

の整備にあたります。また、各地区ごとの活動を中心に会員相互の親睦交流の場の設定や、現職の先生方のお手伝いもできたらと考えています。同窓会本部との連携も強化しながら、採用試験対策の支援にも力を注ぎます。

新たに選出された役員(三役)は以下の通りです。

支部長	松下登志男(相模原市)
副支部長	池田 正(綾瀬市) 大石 久宣(横浜市) 大林 正樹(川崎市)
事務局長	山田 節朗(相模原市)



マンドリンクラブの皆さんと一緒に記念撮影

教員採用試験二次試験対策会の開催

山梨県支部長 水上昭夫

山梨県支部では、7月31日(日)に支部の活動の一つである「山梨県教員採用試験二次試験対策会」を都留文科大学で開催しました。一次試験を通過した学生を中心に二次試験の対策として個人面接や集団討論などを行い、採用試験合格に貢献することを目的として実施しました。

対策会には、現役学生と卒業生の20名が参加しました。開催にあたっては、同窓会本部のご協力を得ながら同窓会役員や大学のキャリア支援センター等の関係者と4月から教師となって学校現場で活躍している4名の同窓生を講師に招いて行いました。第1部では開講式後、4名の採用試験の合格者から二次試験に向けて自身の体験談やその対策について発表がありました。面接や集団討論の心構えをはじめ、情報収集の仕方や面接ノートづくり、多くの人や仲間と練習し、アドバイスを受ける機会をもつことなど、具体的な取り組みが話されました。その後のグループごとの話し合いにおいては、参加者の積極的な質問やアドバイスに真剣に耳を傾け、話に聞き入る姿が見られました。

午後からの第2部では、代表者による模擬的授業とグループ別の集団討論(模擬的授業)や個人面接を行いました。予想問題や個人面接の質問例を通して、参加者一人一人の教育観や指導観、児童・生徒観が語られるとともに、教師を目指そうとする熱意が述べられていました。今回の対策会は、参加者が互いに学び合う場としてだけでなく、教師の道を歩もうとする更なる決意の時間になったように思います。



清水支部長お疲れ様でした

静岡県支部長 白井 泰

1 昨年の第17回支部総会（伊豆長岡）において、28・29年度の支部長に推挙されました白井泰（東部）でございます。副支部長 工藤誠（東部）・江川初枝（中部）・大場孝純（西部）、事務局長 星屋康（東部）共々よろしくお願ひ致します。

清水猶前支部長には長い間支部長を務めていただき本当にお疲れ様でした。ありがとうございます。

さて本年度は、4月の定例の理事会に初めて出席。各県支部長のお顔を拝見しながら、60年の歴史を刻んだ都留文大OBの熱い思いを強く感じました。理事会は式次第に則り、滞りなく終了。その後会場を移して「在校生との懇話会」が開かれました。

懐かしい校舎・講義室に入り、10数名の県出身（教員志願）の学生と義務教育を中心とした現場の様子などを語り、5時に閉会、解散。

私事ですが、学生時代軟式テニス部に所属した関係で、愛媛県支部長の谷川さんにお会いできたので良かったと思ひました。また懇親会終了後、夜遅くまで鹿児島県支部長、広島県支

部長、宮城県支部長さんたちと学生時代の思い出話に花を咲かせることが出来ました。

5月7日には現職校長に講師をお願いし、「模擬面接試験体験会」にも出かけました。参加者の全員合格を心より願っております。

そして暮れになり、本稿の締切が近づいたある日、都留のT氏より連絡が入り、11月に新しく出来た、「道の駅つる」で大学の同窓会の協力を得て全国各地の特産品を販売したいという申し出がありました。かなり急いでお話でもあり、異論を挟む余地もなかったので、私の在所の干物店を紹介し、干物販売をしていただきました。この話には、幕末期の都留市境（境村）出身の天野海蔵なる人物と下田との関わりという付録話が付いているのですが、それはまたの機会に。

本年度は、支部総会が実施出来ませんでした。これまでの支部長・事務局長が苦勞された約1400余名の会員の掌握と組織の充実を進めていきたいと思っております。

第5回長野県支部総会～50歳の年齢差

長野県支部長 堀内 敏明

本支部は5年前に全国で36番目の支部として発足し、会員数は1161名です。本年度は学長が初めて欠席となりましたが、原喜雄同窓会長にご出席いただき、10月22日（土）に長野市のホテル国際21で総会及び懇親会を開催しました。総会には10名、懇親会には9名の参加がありました。本支部の特長は、設立以来、参加者の年代層が幅広いことです。今回も1926年卒～2012年卒でした。来年度は南信地区で開催予定です。

会費納入者が減り、返信される方も2割弱の現状から、次のように規約改正を提案し承認されました。

第15条 本会の経費は、本部からの助成金、会費等による。

(改正案) 第15条 本会の経費は、本部からの助成金等による。

第16条 会費は、年額500円とし、徴収については偶数年度ごとに1000円を集めることを原則とする。ただし、状況によってはこの限りではない。

(改正案) 第16条 会費は徴収しない。

また、役員改選では次の方が選出されました。

【平成29・30年度 長野県支部役員】

支部長 小林 久通（1982年卒）

副支部長 塩澤 忍（1983年卒）

同 下島 一道（1986年卒）

監 事 市場香代子（1985年卒）

事務局長 岩崎 朗（2001年卒）



岐阜県支部総会・懇親会開催

岐阜県支部長 山本 吉朗

岐阜県支部は、平成28年で、支部を設立してから6年が経過しました。その間に設立発起人であった細野副会長が病気で退任され、清水副会長が病気で他界され、佐藤事務局長が交通事故で大けがをされたりと大変な6年間でした。

本年は、総会を開く年に当たりました。会場は「ホテル・グランパール岐山」で行いました。

総会には12人の参加があり、議長選任に引き続き、事業報告、収支決算報告、監査報告および事業計画案、収支予算案審議などを行い承認されました。

続いて、役員改選について提案がなされました。基本的に次期役員は、再選の提案がなされましたが、新任として、清水久司副会長、香田静夫庶務、村井一男庶務が選任されて承認されました。

総会終了後に、懇親会を引き続き行いました。最初に、「都留文科大学六十周年記念DVD」を鑑賞しました。大学の発展や進展の様子を伺って、自分たちの大学時代と比較して、その大きな変革や発展に感心しました。また、そのあとで行われた食事会においては、大学在学時代の懐かしい思い出話や現在の生

活等について語り合いました。また、県内の同窓生の教員採用の状況、支援等の様子についての話しや地域の活躍の様子などの話があり盛り上がりしました。

又、参加者の現在の生活の様子では、仕事や趣味に積極的に参加している様子が伺われ、充実した生活を送っていることを知り大変うれしく思いました。

今後、支部活動をさらに高めていきたいと思ひます。

○平成28・29年度岐阜県支部役員 *印新任

・顧問 細野矩義（'66卒）

・会長 山本吉朗（'65卒）

・副会長 *清水久司（'78卒） 藤井幸子（'69卒）

・事務局長 佐藤眞治（'72卒）

・庶務 *村井一男（'79卒）*香田静夫（'79卒）

古川一男（'81卒） 梅田典利（'91卒）

・監事 河合 均（'84卒） 山岡一信（'84卒）



『福井県支部「城山会」総会 ～再び福田学長をお迎えして～』

福井県支部長 荒木 基 裕

今年度の支部総会は11月5日(土)に福井駅東口にあるアオッサで行いました。駅に近い場所の方が集まりやすいという声を受け、昨年度と同じ会場で設定しました。

昨年は福田学長にお越しいただき、都留大60周年に関連した内容や大学の未来についてお話を伺いました。

今年も是非おいでいただきたいという勝手なお願いに、快く応えていただき、再び福田先生をお迎えすることができました。平成29年4月に国際教育学科がスタートするということもあり、『「国際」と掛けて』という演題で御講演いただきました。先生がパンフレットにお書きになった、マイケル・ムーア監督の映画『世界侵略のススメ』に関するお話を中心にお聞きしました。

参加者は全部で28名と、昨年より10名余り減りましたが、懇親会には昨年並みのご参加をいただきました。昨年おいでいただけなかった方も8名含まれていて、懐かしい顔ぶれが集まり、大変にぎやかな会となりました。福井の子どもの学力体力が今年も日本一となりましたが、喜ばしい反面、教師の肩にも重くのしかかっていること等、学校教育に関連した話題が多かったように思います。会員の皆様、ご協力どうもありがとうございました。

ございました。

最後に、来る平成29・30年度の支部総会は嶺南地区が担当します。嶺南の地で再会できますことをお祈りしています。



第12回愛知県支部地域交流会

愛知県支部長 長尾 隆

1 県支部の活動

愛知県では、県内を8地域に分けて、持ち回りで年1回地域交流会を開いています。この会では、それぞれの地域における活動の報告を中心に進めています。また、各地域での、同窓会員の洗い出しや新規採用者の情報交換も行っています。そして今後の課題も報告され、5年に1度開かれる県総会に向けての取り組みが確認されました。

2 「地域幹事会」から「地域交流会」への移行

平成27年度より地域幹事を中心に集った地域幹事会という名称を、地域交流会に改めました。これは、この会にぜひ参加したいという会員の声から、「幹事会」では出席しづらいので、誰もが参加できる会の名称にしてほしいという声があったからです。今回は幹事の世代交代もあり、新しく参加した会員も多くみられ、参与(校長、校長OB)も含め、23名の参加者がありました。十分に連携を深めることができました。



12月10日(土)メルキュールホテル名古屋にて

《平成28年度県支部組織》

支部長	長尾 隆 (名古屋 57初)
事務局長	竹内義信 (名古屋 58初)
地域幹事	名古屋 水野修司 (61 英)
	尾 張 各務 泰 (58 初)
	海 部 平野 豊 (56 初)
	知 多 榊原孝彦 (57 国)
	西 三 河 平岩康彦 (58 初)
	豊田・みよし 杉浦俊孝 (58 英)
	東 三 河 岩瀬雅洋 (57 初)
	新城設楽 後藤康仁 (58 英)

11年目の課題

三重県支部長 福田和幸

昨年の10周年記念企画の一つとして原稿募集した記念文集「城山」を発行し、17名の手記を掲載しました。支部結成の苦勞話、学生時代の思い出、近況の紹介など自由に綴られていますが、年代の差はあっても「あの町」でなければ味わえなかった青春という共通の皮膚感覚がどの文章にもうかがえます。

総会は8月20日、津市の三重県教育文化会館で開き、20名の参加者の内初参加が2名でした。総会議事後、記念講演では東海学園大学の梶岡多恵子教授の「夢を叶える健康づくり～カラダ年齢マイナス10歳」というお話を聞きました。講演の中ではストレッチ体操も紹介され参加者全員で足腰や腕を動かし、自分の老化をチェックしました。

この少し前に、朝日新聞の企画広告で掲載された都留文科大学の全面広告と、国際バカロレア教員資格取得を目指す新学科を紹介した新聞記事を会場に掲示、母校の情報を共有しました。

また、「空から日本を見てみよう」という大月から都留を空撮し、都留文科大学周辺の光景や市内の各所を紹介したテレビ番組の話題も出ました。

昨年は、10周年記念として母校を訪ねる旅を実施しましたが、これからの10年を考えると、引き継いでいってもらえるよう切れ目のない年代の参加を得るためには若い世代の名簿補充が必要です。そのための個人情報保護の壁の克服が課題です。また、求心力のある企画も求められています。

H28年度三重県支部役員

顧問	山本征也 中矢泰之 松本正美
会 長	福田和幸
副会長	田畑繁行 廣田貞代
幹 事	海住 壽 中瀬善美
庶 務	六田嘉郎 松岡みつ子 田中幹也 一木尚子



支部活動の灯をともし続ける

奈良県支部長 岡田 善英

平成28年8月28日に学園前の中国料理店「銀座四川」にてに第5回奈良県支部総会開催しました。

毎回そろって顔を見せてくれる役員の方や久しぶりに出席していただいた会員の方と共に無事に総会を終了しました。今回は、昨年度私が支部を代表して参加した「都留文科大学創立60周年記念式典」について、皆さんに報告いたしました。40数年ぶりに訪れた都留の変化、発展ぶりに驚いたこと。街を歩いてみると、新しい建物、新しい道や近代的な都留文科大学前駅ができていて、昔の面影を見つけるのにひと苦労したこと。式典での後輩たちの素晴らしい発表等々。総会出席者の中には、当時活動したクラブの関係から毎年都留を訪れている方もありましたが、私のように卒業後まだ都留に行っておられない方は、私の報告に興味をもって懐かしく聞いていただきました。また、いただいた記念CDや記念誌は希望者に受け取ってもらいました。

その後の懇親会は、食事をとりながら大学の思い出話に花が咲きました。そして、自分たちが中心となって今後の支部活動を盛り上げていこうと話しました。

平成28年支部役員

- 名誉会長 瀧川 佳市
会長 岡田 善英
副会長 高橋 強 山本 泰彦
監事 石田 好庸
理事 西尾八千穂 辻 明彦 米田 悦子



「遂に設立！」和歌山県

和歌山県支部会長 前田 忠

平成28年2月20日(土)雨の降りしきる中、大学より福田誠治学長、同窓会本部より原喜雄会長を迎え、北は泉南市から南は串本まで、33名の同志を交え、素晴らしい同窓会組織が誕生しました。全国で39番目となりましたが、これからしっかり盛り上げて「日本一楽しい支部」にすることを目指して頑張ります。ご支援宜しくお願いします。

総会で、福田学長の大学運営への熱い思い、格調高いご講演を拝聴したあと、宴会では懇親を深めました。しかし、人数が多すぎての皆さんの話が聞けなかった事が心残りでした。

和歌山県は南北に長いので、会員の交流が難しい状況にあります。従いまして、活動の拠点を紀北・紀中・紀南の三つのブロックに分けています。

今後は、このブロックの活動を積極的に構築していきたいと思っております。

本県に在住する同窓生は約160名いますが、そのうち本会にご協力頂ける同窓生は約半数の69名です。

和歌山県支部役員

- 支部会長 前田 忠 (S45度初)
副会長 根田 渡 (S47度英)
副会長兼紀中ブロック長 廣田 千鶴 (S50度初)
事務局長兼紀北ブロック長 谷口 博保 (S51度初)
監事 小左 古治 (S45度英)
監事 木浦 憲一 (S46度初)
庶務兼紀南ブロック長 和田 靖子 (S52度初)
庶務 山入 邦雄 (S46度英)
庶務 廣田 敬則 (S55度初)
庶務 前田麻唯子 (H18度英)
庶務 北出 雅也 (H25度院)



花と緑の淡路島にて、第26回兵庫県支部総会を開催！

都留大同窓会理事代理・兵庫県支部役員 庄田 康夫

わが国最古の歴史書『古事記』や『日本書紀』の冒頭を飾る「国生み神話」。この壮大な天地創造の神話の中で最初に誕生する特別な島が淡路島です。イザナギ尊・イザナミ尊の二神が国生みとして島の中央に位置する伊弉諾神宮に祀られています。また、淡路島北部には、21年前、明石海峡を震源地とし、未曾有の阪神・淡路大震災を今に語り継ぐ野島断層北淡記念公園があります。野島断層跡や民家、そして神戸長田地区にあった公設市場防火壁等を公園内に再現、遺構として保存されています。

平成28年度、都留大同窓会兵庫県支部総会を6月4日(土)、淡路市のパルシェ「香りの館」において開催。今年で26回目を迎えました。県下7地区から大勢の参加がありました。第1部は、平成27年度事業報告並びに会計報告をはじめ、平成28年度事業計画、予算案についての協議。また、大学の現状や後輩たちへの支援状況についての報告などが行われました。

第2部は、『都留大の未来へのビジョン』と題して、都留大理事兼副学長の阿毛久芳先生のご講演を拝聴しました。阿毛先生は、母校の教育の現況、そして未来へのビジョンについて、大きな視野で専門分野から熱く語られました。

◇平成28年上半年期の大学沿革

- 2月 理事長に前山梨県知事の横内 正明氏の就任。(前理事長の大谷 哲夫氏は、東北福祉大学長へ)
3月 国際交流会館竣工。特別支援学校教員免許課程認定申請。
4月 国際教育学科設置届。学科改編、新設準備室設置。

◇国際教育学科の特別講座 東京・京都・名古屋・都留等での開催。『未来の先生』になるために大学でどんな勉強を…。

講師：福田 誠治学長

◇都留大創立60周年記念式典；2015年10月10日

講演「これからの社会と教育」；現文科省顧問 山中 伸一氏

◇新教育課程 大学教育改革 IBの学習者像 卒業論文のこと

◇詩人 和合 亮一の詩『青い空に』の朗読

*うつむいていると 涙がこぼれそうになるから
空を見上げるといいよ 雲 光 風
表情が変わっていくだろ ほら
生きている 生きていく

第3部 懇親会では、阿毛副学長にもご参加いただき、開催地を代表して、仲野氏のあいさつで始まりました。淡路島の食に舌鼓を打ちながら澁谷会長を中心に参加者全員のトークも交え、都留への感謝の思いなどが語られ、和やかなひとときを過ごすことができました。最後はいつものように学生歌「花のかげ」を全員で斉唱し、閉会となりました。

最後になりましたが、毎年行っている現役生・卒業生対象の「一次・二次の教員採用選考対策学習会」を、今年度も2回実施することができました。今後も反省・評価しながら、受験者全員合格を目指して、さらに充実した学習会にしていきたいと思っております。



京都府支部第3回総会と懇親会

京都府支部長 枘谷雄三

平成28年12月3日(土)に京都駅前のアパホテル地下で、第3回京都府支部総会・懇親会を行いました。

総会に先立ち、京都市立高校教諭船越氏(もちろん同窓生)の『教え子をリオ・東京五輪へ～これまでのキャリアを生かして～』と題した講演を拝聴しました。

氏がJICAの活動でアフリカジブチ共和国(自衛隊が初めて海外基地を建設したことでよく知られている。世界一暑い国。)に派遣された時の経験や京都での教員生活を、陸上競技指導との関連を交えて話していただきました。

総会は、昨年より少し少なく20人でした。「船越先生のお話をもっとたくさんの人に聴いて欲しかった。」が参加者の共通の感想でした。

また、『やはりグローバルな視点、大切ですね』という感想は、我が都留大が今年4月開設する『国際教育学科』を歓迎するものでしょう。同窓会本部からいただいた国際教育学科のパンフレットなどの資料を参加者にお渡しし、教え子や知り合いへの宣伝をお願いしました。

初参加の方が2名お越しでした。その方々は長く、回を重ねている人は短くスピーチしていただき、懇親会は懐かしい話で

和やかに続けました。

支部長	枘谷 雄三 (S45)	副支部長	北村 友子 (S49)
事務局長	草野 真 (S52)	会計	中山 喜人 (S61)
席 務	奥水 孝志 (S55)	監 事	森 弥生 (S56)
//	岡田 典之 (H1)	//	小森真寿美 (S51)
//	梅原 寿夫 (S63)	//	松浦 崇 (H10)
//	平山 孝次 (H4)	//	小谷 聡 (S61)
会計監査	荻生 佳子 (S46)		
相談役	酒井 好治 (S45)		※卒業年はその年の3月



滋賀県支部 結成3年目

第3回支部総会と懇親会を実施

滋賀県支部長 松嶋孝雄

滋賀県内の同窓生皆が渴望してきました積年の大きな思いが実を結び、滋賀支部が結成されて、3年目を迎えることができました。

福田誠治学長先生をお迎えし、第3回支部総会と懇親会が、事務局長様のご尽力により、開催できました。

総会前日には、昭和60年度卒の清水氏の希望により、福田誠治学長先生を招聘し、東近江市教育委員会の夏期研修会において、ご講演いただきました。同窓生の方々も参加したい強い気持ちがありながらも、公務・私事等により儘ならない場合が多く、折角の機会でしたが、残念なことでした。しかしながら、夏休みの昼からという眠気を誘う時間帯に関わらず、また、選択研修でありながら、市内の百人近くの教師達が熱心に耳を傾けました。福田学長先生は、参加者の熱意に感心しておられました。



堅忍不拔で 未来に託す

広島県支部会長 小谷桂司

今は、「堅忍不拔」。冬過ぎれば、春来る。

支部活動も少しずつ、牛歩の如くである。

一方、広島県の教員採用状況は、毎年4月の同窓会理事会後の懇談会・5月の模擬面接試験体験会の日に行われる同郷の在校生との懇談・情報交換会で、お会いした人から今年も「採用決定」のお手紙を戴きました。在校生には、是非とも4月・5月の会合に多数の参加を望みたい。

さて、今年の県の総会の場を呉市の中央の地を日本遺産認定(佐保・舞鶴・横須賀と共に;旧軍港4市)の場所の数カ所(大和ミュージアム・鉄のくじら館(実物の潜水艦内)・海軍墓地公園・入船山記念館(呉鎮守府長官舎跡など)歴史の見える丘(戦艦大和の建造ドック跡)アレイからすこじま(現状の海上自衛隊呉潜水艦基地;目前に潜水艦・自衛



艦)赤煉瓦の倉庫群や呉工廠後等)の観光を計画実施し、総会をしました。

総会参加者を増やすためにも、工夫をと考えています。佳き未来に託すためにも。

丁酉 鳥が如くに 羽ばたかん
先を見据えて 足跡 築かん
桂 歴代

平成28年度役員

顧問	金久陸彦	中西正一		
会長	小谷桂司			
副会長	目崎仁志			
事務局長	二宮 正			
理事	田丸正実	宮本 仁	山城義明	玉山 洋
	猪原憲三	本宮達弘	土橋義信	三永政幸
	池田桂子	島本智子	福岡武志	吉貞至誠
監査役	白石 隆	五葉木輝正		
幹 事	山中 護	田辺恵子	兼丸裕子	安藤正弘
	奥窪尚昭	末房朋子		

鳥取県支部の近況

鳥取県支部長 山本 英明

平成28年11月23日(水)、倉吉市にて、都留文科大同学窓会鳥取県支部総会ならびに懇親会を開催しました。

1か月ほど前、震度6弱の地震が鳥取県中部で発生し、家屋など被害が出ました。会員の中にも被害に遭われた方があり、開催が危ぶまれましたが、「前向きに頑張ろう、中部を元気に!」を合言葉に、無事開催の運びとなりました。

「被害は?家の中はだいじょうぶ?」とあいさつを交わしながら、総会を始めました。総会において、理事会参加者(現在の大学の様子など)、活動・会計等の報告がされ、今後の活動計画・予算について、承認がされました。

総会後の懇親会では、近況報告や懐かしい学生時代の思い出、健康や趣味、防災に関する話題等で盛り上がりました。年代を超えて、交流を深めるひとときを過ごすことができました。

今後も大学と連携し支部活動を充実させるとともに、会員の輪を広げ、会員同士の交流をより活発にしていきたいと思っています。

毎年、支部総会は勤労感謝の日を予定しています。次回は、平成29年11月23日(木)に開催予定です。皆さんの参加をお待ちしています。



支部設立12年目を迎えて

鳥根県支部 大島 英明

平成28年8月27日(土)に都留文科大同学窓会鳥根支部の役員会ならびに懇親会を開催しました。役員会→総会と隔年ごとに開催していますが、今回は6名の参加となりました。

役員会では、役員会のメンバーも少しずつ参加が減ってきて、世代交代を考えていかなくてはならないのではという話題が出ていました。

私事ではここ数年、採用試験対策講座の講師として毎年都留に行かせていただいております。都留とのつながりができうれしく思っています。私が担当する学生さんは毎年一人ですが、採用試験のことだけでなく、いろいろな話ができるので楽しいひとときを過ごさせていただいております。

このような経験をたくさんの方に経験していただくということで、総会等にはいろいろな方に参加してもらおうという案も出ていました。今後も鳥根支部の活性化を考えていきたいと思っています。

以下、現在の役員を紹介します。

- 鳥根県支部役員(卒業年度)
- 顧問 木村晴男(S44)
 - 支部会長 小藤 貢(S45)
 - 副会長 服部哲郎(S44) 槇野博巳(S45)
 - 飯島良子(S53)
 - 理 事 寿 慧信(S42) 池田 稔(S43)
 - 伊藤 博(S44) 大島英明(S59)
 - 事務局長 大島英明(S59)



13周年を迎えた岡山県支部

岡山県支部長 原田 直樹

私ども岡山県支部は設立13周年を迎えております。母校の発展に寄与できますようこれからも支部活動を充実させてまいる所存です。本部の御支援を引き続きお願いいたします。

平成28年2月11日に公立学校共済施設「ピュアリティまきび」で支部総会を開催しました。掲載の写真が総会参加者です。校旗を忘れたため、誠に背景がさみしいのですがお許し願います。

残念ながら、前年度を上回ることができず、8名の参加となり、若い世代や女性の参加がなく、やや冬枯れの感がありますこと、来年度こそは画面いっぱいの写真を送らせていただこうと張り切っています。

スライドショーをとおして母校の現在を見るにつけ、思い出すのは都留の思い出、和気藹々の楽しい懇親のひとときを皆さんとともに過ごせたと思っています。

毎年支部総会は2月11日頃を予定していますので多くの方々の懐かしいお顔をお見せください。若手の会員もぜひごぞって参加してください。今後の岡山県支部発展のためには皆さんのお力添えが必要です。写真の人々は高齢者が多数です。卒業し

たらずひ支部長宛に連絡をください。老若男女、年代を越えて同窓会を盛り上げましょう。

- 岡山県支部役員
- 支 部 長 原田 直樹
 - 副支部長 菱川 徹
 - 理 事 岩城 孝志 坂上 信二
 - 中野 元雄 土師 康生
 - 監 査 川口與志継 岩崎 美幸
 - 事 務 局 岩城 孝志 岡本 智江 野崎 博子



支部創立14年目を迎えて

高知県支部長 前田 志郎

平成28年8月6日(土)に都留文科大学同窓会高知県支部の総会ならびに懇親会を開催しました。平成15年6月に高知県支部が結成され今年で早14年目を迎えました。これも支部設立に尽力された諸先輩方のおかげです。設立以来支部総会・懇親会が継続できていることに事務局長はじめ役員の皆様そして参加された会員の皆様に心から感謝申し上げます。今回は、いろいろ都合のある中、同窓生6名が参加して、老舗旅館城西館を会場に温かい雰囲気の中、いつものように楽しく親睦を深めることができました。

まず、総会は在校時代になじんだ「花のかげ」を全員で斉唱してから始まるのが恒例となっています。伴奏が流れると歌詞が自然と口について出てくるのが不思議で学生時代にかえったようななとも懐かしい雰囲気となりました。続いて会長の挨拶や出席者の自己紹介・近況報告等がありました。私からは、4月16日(土)に行われた都留文科大学同窓会理事会の報告をいたしました。創立60周年記念事業の概要、国際教育学科の開設(2017年4月)、新校舎の整備構想等、母校は少子化の中でも生き残りかけて新たな挑戦を考えていることを説明し、教えや保護者・同僚にPRしようと話し合いました。今年は、在校生との懇話会に本県出席者がいなかったことも報告し、来年度はつながり、広がり、輪ができることを願ったことでした。そして、平成27年度の事業・決算等が報告され、平成28年度の事業計画・予算に

ついても審議され承認されました。高知県支部としての課題は、継続して総会・親睦会を行っているものの、参加者が固定化されていることです。県内の同窓生が一人でも多く参加できるよう、活動計画を工夫したり、声をかけ合ったり、広報を工夫したりして、これまで以上に同窓生とのつながりを広げ、深めようと確認し合いました。親睦会では、高知の新鮮な食材を使った料理をいただきながら、都留での学生生活の様子やご指導いただいた先生方との懐かしい思い出がだされ、卒業年度を越えて交流を深めながら有意義な時間を過ごしました。

総会・親睦会のあとは研修です。今回は、土佐の偉人坂本龍馬の生まれた上町に開館している「高知市立龍馬の生まれたまち記念館」の見学。世界や国家の変革期にあって、その困難を乗り越えさせた龍馬という人材が、なぜここに育ち世に出たのか、「龍馬を育てた人と町」「龍馬と家族」「龍馬に思いを馳せる部屋」「高知城下タイムスリップマップ」「龍馬追体験コーナー」「龍馬ゆかり人との」等を通して龍馬と語ることができる展示となっていました。改めて龍馬という逸材を誕生させた土佐の歴史に感動しました。

次回は、平成29年8月の第一土曜日に開催予定です。多くの同窓生の皆様の参加をお待ちしています。

(文責 前田志郎)



同窓会名簿の再編成を!

長崎県支部長 平山 繁壽

7月23日(土)に長崎市で「平成28年度長崎県支部同窓会総会」を開催しました。今年、残念ながら6名の出席でした。60周年記念のDVDや写真を見ながら、それぞれの学生時代の思い出話に花を咲かせながら懇親を深めました。

長崎県は南北に長く、3つの大きな島(五島・壱岐・対馬)があり、また会員の高齢化及び体調不良のため、同窓会への参加者数が年々減少傾向です。

それに「離島及び遠隔地との交流人事」が実施されており、住居の確認が困難な状況があります。

そこで、「地区支部の設置(長崎、佐世保、諫早大村、島原半島、五島、壱岐、対馬)」と「会員名簿の再編成」を総会に提案しました。平成16年発行の名簿をもとに地区ごとの名簿を作成し、「まず知っている人から、連絡がとれる人から!」をテーマに、現在も連絡・確認作業を行っています。

名簿再編成の依頼をしている最中に、都留市役所から電話があり(何事かな?)と思ったら、都留市に本社があり全国の羽毛布団製作の70%をシェアする「(株)富士新幸」の九州工場が、壱岐市にあることが分かりました。その繋がり、都留市

に新しく造られる「道の駅」に長崎県壱岐市の物産を出品したいとの連絡でした。思わぬところで、長崎県と都留市との繋がりを発見できた出来事でした。

【平成28年度役員】

- <顧問> 柴田高明・西田正人
- <支部長> 平山繁壽
- <副支部長> 江口匡彰・藤崎大吉郎・三宅道夫
明石 仁
- <事務局長> 渡邊 林
- <監事> 尾崎威敏・浦 紘一郎

【地区の代表者及び責任者】

- <長崎> 江口匡彰・藤崎大吉郎・尾崎威敏
- <佐世保> 柴田高明
- <諫早大村> 川口良輔
- <島原半島> 西田正人・三宅道夫・渡邊 林
浦田勝市
- <五島> 浦 紘一郎・明石 仁・牟田茂博
- <壱岐> 西谷徳道・坂口 隆
- <対馬> 平山俊章

第18回熊本県支部総会報告

熊本県支部長 永田 好文

はじめに、熊本地震に際しましては、同窓会本部の原喜雄会長様はじめ、全国各地の同窓生の方々から心温まる御芳志や励ましの言葉をいただき、心から感謝申し上げます。このような絶大なる友情に支えられ元気と勇気を得て、現在、復興に向けて、着実に歩を進めているところでございます。

さて、昨年10月、2年に一度の県支部総会を開催しました。会場に到着して驚いたのが、宮城県在住の同窓生・横山英実様から清酒が届いていたことです。有り難く頂戴して、乾杯の際に使わせていただきましたが、感動的な美味しさでした。今回は県内各地から22名参加いただきましたが、特に4月14日と16日に発生した熊本地震による会員の被災状況確認とさらなる熊本支部の絆を深めることを目的としていましたので、多くの方に集まっていたいただき、大変嬉しく思いました。議事終了後、新会員の本田義智氏と木村翔正氏による初めての学校現場体験談は、退職されて学校現場を懐かしく思われている方々には、心温まるプレゼントになったようです。会の終盤には、杉水修氏のアコーディオン伴奏で大学時代に親しんだ武田節と花のかげが声高らかに熱唱され、地震で荒んだ心が癒やされました。

また、欠席者からもたくさんコメントをいただいております。その内容から、次回はさらに参加者が増えそうです。ただ、気になるのが、御本人や身内に体調を崩されている方が数名おられ、心から回復を願っている次第であります。

なお、今回の支部総会は、平成30年10月開催の予定です。



平成28年度鹿児島県支部総会を終えて

鹿児島県支部長 本田 武久

平成28年度、鹿児島県支部総会を10月29日（土）、鹿児島市内のホテルで午前10時30分から開催しました。総会では、会務報告、役員改選などを行った後、研修の時間を設定しました。講師にMBC南日本放送局のパーソナリティとして活躍中の宮原恵津子さんをお招きして、「人生劇場あなたが主役」と題して約1時間半の講演をお願いしました。局アナやフリーアナウンサーとしての経験やご自身の生き様を通して感じた事例を持ち前の話術を駆使され、次々と披露されました。50代以降は成熟脳の時期で、絶頂期は70代である。退職後は一日完結の生き方をしよう。等々は参加者の約半数を占めた退職組へのエールとして好評でした。研修後は恒例の懇親会。都留での青春時代の思い出や近況報告を卒業年度順に行いました。今回の参加者は45歳から76歳までと幅広い年齢層となり、現職会員の参加も17名（全参加者34名）で、半数を占めました。これまでと違い若々しい雰囲気の中で開催できました。また、女性が9名も参加しての総会は、私の知る限りでは初めてのことで、大変嬉しく思うことでした。過ごした時期は異なっても、人生の礎を築

いた都留での青春時代。参加者全員がタイムスリップして大いに語り、楽しく飲んだひとは、あっという間にタイムオーバー。来年も元気で再会しようと声をかけ合いながら全員揃って記念撮影。会員の発掘、連絡網の充実を図ることを確認して閉会しました。

- 支部長 本田武久（昭和43年度卒）
- 副支部長 植村和信（昭和45年度卒）
- 副支部長 大山典男（昭和45年度卒）
- 監事 値 弘光（昭和41年度卒）
- 監事 平澤泰明（昭和41年度卒）



体育会

平成28年度体育会
会長 喜屋武 賢樹

早春の候、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。



平成28年度体育会基本方針「進」の下、体育会本部並びに各部活動が精進して参りました。今年で43回目を迎えた鶴鷹祭では先輩方が受け継いできた記録を打ち破ることが叶わず、敗北を喫する形になりました。しかし、白熱した試合を通して両校の友情、親交を深めることができました。

また関東甲信越体育大会に関しては都留文科大学が主幹校となり、多くの部が優勝や上位入賞という成績を収めました。またリーグ昇格を果たすなど我々体育会にとって実りのある一年となりました。各部が厳しい環境の中でもこのような結果を収めることができたのも、ひとえに先輩方の厚いご支援ご協力があったのことであります。

これからも我々体育会一同、より一層精進して参りますので、今後も都留文科大学体育会をよろしくお願い致します。



文化会

平成28年度文化会
会長 松下 梨奈

春暖の候、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成28年度におきましては、文化会所属である合唱団が11月19日に行われました「第69回全日本合唱コンクール」におきまして、8年連続の金賞を受賞し、また、日本放送協会賞も受賞し、大変優秀な成績を収めることが出来ました。これは、現役員の努力の他、OB、OGの先輩方のお力添えの賜物と、深くお礼申し上げます。

また、合唱団は2011年12月に続き2回目となる石巻地方



での復興支援コンサートを行い、管弦楽団・吹奏楽部などの音楽団体は定期演奏会、写真部や書道部は展示会などさまざまな活動を行っています。

文化会本部におきましては、諸先輩方が築いて下さった伝統を引き継ぎ、各団体のさらなる発展を目標に、積極的に活動を行っていききたいと思います。

今後とも、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方には、ご指導とご鞭撻のほどをよろしくお願い致します。



第24回都留文科大学同窓会総会のお知らせ

○日時 平成29年8月5日(土) 午後2時

○場所 都留文科大学2号館 101教室

同窓会会員の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

同窓会の事業である「在学生との懇話会」、「模擬面接体験会」等、会員の皆様のご協力で充実したものになってきました。

また、宮城県や東京都の支部独自活動から始まった教授対策学習会等の支援活動も各支部へと拡大しています。今年度も各支部より教授対策学習会の開催内容等が同窓会本部に報告されています。今後もさらに充実させていきたいものです。

大学では学生への支援活動として平成26年4月には、教職支援センターが設立され、教員養成に関して資質・能力の向上をめざした体制ができました。教職課程カリキュラム、SAT活動、教育実習、教員免許状更新講習、卒業生への教職支援など様々なサポートを行っています。

さて、各位の厚いご協力のおかげで、同窓会総会も重ねて今回で24回目となりました。会員数も平成28年4月1日現在32,995名となり、各界での会員の活動も同窓会報にも見られるように素晴らしいものがあります。

第24回の同窓会総会には、全国から集まっていただく会員の皆様に良い思い出が残せるように、今回は富士五湖の花火大会(8/1~5)が行われる8月上旬の開催となりました。夏の思い出に同窓会総会に参加して昔を語り、夜は打ち上げ花火を見て帰りませんか。できる限り会員同士連絡を取り合い、大勢の参加を心よりお願い申し上げます。一人でも多くの同窓会員が出席して、盛大な総会が開かれることを執行部も大学当局も切に願っております。よろしくごお願い致します。

平成27年度都留文科大学同窓会会計収支決算書

(単位：円)

◆収入の部

項目	当初予算額	補正予算額	予算現額	収入済額	備考
入会金	4,260,000	0	4,260,000	4,260,000	852人×5,000円=4,260,000円
終身会費	8,520,000	0	8,520,000	8,520,000	852人×10,000円=8,520,000円
繰越金	710,841	0	710,841	710,841	平成26年度繰越金
基金繰入金	14,000,000	0	14,000,000	13,566,000	大学創立60周年記念事業等
寄附金	0	0	0	0	
雑入	60,000	0	60,000	36,533	理事会・総会懇親会御祝儀、預金利息
収入合計	27,550,841	0	27,550,841	27,093,374	

◆支出の部

(単位：円)

項目	当初予算額	補正予算額	予算現額	支出済額	【見込額】 備考
事業費	8,060,000	10,000	8,070,000	7,231,343	
会報発行費	2,800,000	0	2,800,000	2,428,467	同窓会報第34号(平成27年度発行)
支部助成金	3,600,000	0	3,600,000	3,460,000	東京 神奈川 山梨 長野 静岡 愛知 720,000円(@120,000円×6支部) 富山 兵庫 220,000円(@110,000円×2支部) 北海道 岩手 宮城 茨城 埼玉 千葉 石川 福井 岐阜 大阪 広島 1,100,000円(@100,000円×11支部) 山形 群馬 三重 京都 岡山 徳島 愛媛 鹿児島 720,000円(@90,000円×8支部) 滋賀 鳥取 島根 長崎 熊本 宮崎 沖縄 560,000円(@80,000円×7支部) 奈良 高知 140,000円(@70,000円×2支部)
支部設立準備金	300,000	0	300,000	150,000	和歌山県
新入学祝費	550,000	0	550,000	528,876	
支部旗作成費	110,000	0	110,000	54,000	和歌山県
教員採用試験学習会費	400,000	10,000	410,000	410,000	東京 宮城 山梨 石川 神奈川 千葉 長野 愛知 富山 兵庫
被災地支援活動費	300,000	0	300,000	200,000	被災地支援金(岩手県、宮城県)
会議費	2,700,000	0	2,700,000	2,176,102	
総会費	800,000	0	800,000	312,836	
理事会費等	1,900,000	0	1,900,000	1,863,266	
同窓会本部費	2,210,000	320,000	2,530,000	2,430,000	
事務費	150,000	0	150,000	150,000	
運営費	1,600,000	320,000	1,920,000	1,820,000	貸金負担金700,000円含む
慶弔費	340,000	0	340,000	340,000	入学式・卒業式祝い生花ほか
本部役員活動費	120,000	0	120,000	120,000	平成27年度役員報酬
寄附採納	14,000,000	0	14,000,000	13,566,000	
大学創立60周年記念事業費	10,000,000	0	10,000,000	10,000,000	大学創立60周年記念
大学設備整備費	4,000,000	0	4,000,000	3,566,000	大学会館冷暖房設備支援
積立金	0	0	0	0	大学創立記念事業基金
予備費	580,841	△330,000	250,841	10,000	教員採用試験学習会費、運営費等へ
支出合計	27,550,841	0	27,650,841	25,316,579	

(収入済額) (支出額) (収入・支出差引残高額)
¥27,627,909 - ¥25,316,579 = ¥2,311,330

◎ 積立基金の内訳(見込)

◆平成26年度未現在高	43,699,085円
◆平成27年度基金取崩	▲14,100,000円
◆平成27年度中積立金(財政調整基金)	0円
◆平成27年度中積立金(大学創立記念事業基金)	0円
計	29,599,085円

基金内訳

財政調整基金	9,602,425円
財政調整基金取崩	▲4,100,000円
大学創立記念事業基金	34,096,660円
大学創立記念事業基金取崩	▲10,000,000円
計	29,599,085円

国際交流会館完成

◆国際交流会館とは

平成28年3月に完成し、入居開始となった国際交流会館は、主に海外から受け入れをしている交換協定に基づく留学生のための宿泊施設ですが、本学学生も一緒に生活することが出来ます。現在、留学生21名、本学の学生5名が共同生活を送り、互いに交流を深めあっています。国際交流会館に入居することで、欧米圏、アジア圏からの協定に基づく留学生と寝食を共にすることや異なる文化に自然に触れることができ、国際感覚を養うことができます。



◆国際交流会館の特徴

ユニット単位でのシェアハウス

4つの個室と共有スペースで1つのユニットを共有するシェアハウスです。さらに、4つのユニットで1フロアが形成されており、1フロア16人でシャワー室やランドリー、トイレを共有します。



2階から4階が居住フロアになっており、合計48人の居住が可能になっています。

各種イベントへの参加

様々なイベントや地元行事への参加なども行っています。違う文化や価値観を持った人たちと一緒にそれらに参加することで、留学生はもちろん、本学学生も日本の文化や自然に新しい発見をすることが出来ます。



そして、それらの一つ一つが単なる‘学習,にとどまらない‘学び,につながっていきます。

多目的ホール、囲炉裏（いろり）スペース

1階は主に交流のためのフロアになっています。

囲炉裏（いろり）スペースでは、温かい飲み物を飲みながら、違う文化で育った友人と語り合うことが出来ます。

多目的ホールは約85㎡（50畳以上）の広さを持ち、ウッドデッキから隣接する鶴水公園を臨み、調理室を併設しています。

ここでは、地域の人を交えた交流の場や入居者のウェルカムパーティ、送別会その他様々な催しを行っています。



氏名・住所等変更はホームページ・E-mail・郵便はがき・FAX でお願ひします

結婚・転居等により住所や氏名等を変更された方は、次の必須事項及び変更内容を、いずれかの方法によりお知らせください。郵便はがきでの氏名・住所等変更届の場合は、はがきは自己負担をお願いします。

1 ホームページ

(1)ホームページより[卒業生の方へ]→[同窓会]→[同窓会氏名・住所等変更届]にて行ってください。なお、詳しい変更方法については、ホームページ上に掲載してありますので、ご参照ください。

都留文科大学ホームページ

URL : <http://www.tsuru.ac.jp>

(2)ホームページ上にて氏名・住所等変更届けを行う際には、次のパスワードが必要となります。

パスワード : **tbdh2206**

(半角英数) ※同窓会会員以外による不正使用がないよう、パスワードの管理にはくれぐれもご注意ください。

2 E-mailにて送信

E-mail : dousokai@tsuru.ac.jp

3 FAX・郵送

〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1 都留文科大学同窓会 宛

TEL 0554-43-4341 内線206

FAX 0554-43-4347

◎必須項目	○変更内容
氏名（フリガナ）／旧姓 卒業年・学科	現住所／電話番号 勤務先名 勤務先住所／電話番号 勤務先の役職

※住所移転等で同窓会報がお手元に届かない場合がありますらご連絡ください。☆同窓会ブログも平成24年11月から発足しておりますのでご覧下さい。

掲載は本学ホームページより [卒業生の方へ] → [同窓会] → [同窓会ブログ] を参照ください。

新学科「国際教育学科」の開設にあたり

新学科準備室 教授 茂木 秀昭

昨年4月以来、準備を進めてきた国際教育学科が、平成29年4月から開設の運びとなった。今年の4月末に国際教育学科の新設に関わる届出書を文科省に提出し、6月には認可に問題のないことが確認された。現時点で我が国唯一となる国際教育学科の入学定員は40名、専任教員数は7名でのスタートとなる。すでに日本語と英語のパンフレットを作成し、全国の高等学校に案内を開始し、新聞広告も出し、雑誌や新聞の記事にも取り上げられ、これまでに公開講座を全国で5回開催し、オープンキャンパスも2日間連続で開催した。

新学科の特色の一つは、国際バカロレア (International Baccalaureate) 教育のできる教員養成ということである。国際バカロレアはジュネーブに本部を置き、現代のグローバル社会に対応するための、世界共通のプラットフォームをもつ国際教育プログラムで、従来の偏差値教育とは異なり、学生による「探究」と「協働」を主体とする教科横断型のアプローチを特徴とする。小学校 (Primary Year Programme)、中学校 (Middle Year Programme)、高校レベル (Diploma Programme) の各課程があり、DPを修了すればそれがアメリカ、ヨーロッパの主な大学の入学資格にもなる。文科省は2020年までに国内のIB校 (DP) 200校以上を目標にしており、DP修了を入学資格として認める日本の大学も増えている。新学習指導要領で高校以下の教育に導入を予定しているアクティブ・ラーニングもIBをモデルにしており、IB教育は、いわばアクティブ・ラーニングの固まりとも言われており、今後の日本の全ての教員養成に有用となるプログラムでもある。

IB教員養成 (IB Educator Certificates) プログラムの設置認可をIB機構に対して申請し、1年半の準備の後、本年9月に2日間の認可訪問があり、オーストラリア人、アメリカ人、イギリス人の3人の認定委員による審査の結果、高評価での無条件認可が決定した。国際教育学科の学生は、4年間かけて国際バカロレアの教員資格 (IB certificate in teaching and learning) を取得すれば、日本も含め、世界のIB校で教員をすることが可能になる。現在、他大学でもIBECの開設を進めているところがあるが、ほとんどが大学院での設置 (IB advanced certificate in teaching and learning researchという別のプログラム) であり、学部レベルでは理系の大学が一つあるだけで、文系では都留文科大学が日本で最初となる。また、小 (PYP)・中 (MYP)・高校 (DP) の3つのプログラムでの教員養成プログラムの設置認可は、学部レベルでは日本初である。IBの目標は、世界平和やより良い社会をつくるためであり、そのために10の資質 (探究する人、知識のある人、考える人、コミュニケーションができる人、信念を持つ人、心を開く人、思いやりのある人、挑戦する人、バランスのとれた人、振り返りができる人という目指すべき学習者像がある) を養成するように、全ての教育プログラムが組み立てられており、生涯にわたって学び続ける人の育成を目指している。



国際教育学科では、教員養成だけを目指しているのではなく、グローバルにも、ローカルにも、創造的に貢献できる人材の育成を目的にしている。そのために、2つ目の新学科の特色としては、グローバルな視点でのリベラル・アーツ教育やディベート教育がある。新学科は、日本語でも、英語でも教えられる教員を揃えているが、大事なものは英語そのものではなく、英語で (あるいは日本語で) 何を学ぶか、何ができるか、ということであり、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの歴史、文化、宗教を学んだり、環境問題などのグローバルな課題や社会の問題を、探究し、議論し、解決策を見出すような教育をおこないたいと考えている。批判的に考え、問題解決能力を身につけたり、論理的にプレゼンテーションや交渉ができるようになるためには、ディベート能力は必要不可欠である。

3つ目の特色としては、2年生の後期に全員がデンマーク等の北欧を中心とした国へ半年程度留学できることである。小中学校の教員養成をするデンマークの7つの専門職大学 (University College) やスウェーデンの大学とは既に何度か行き来をして、交流プログラムの実現に向けて話し合いを進めている。最終的には、同程度度の留学生の受け入れも予定しており、学内でも国際交流がより活発になるだろう。北欧では、大学での授業だけでなく、小中学校でのインターンシップや教育実習などもできる予定である。

国際教育学科は、単にIBを外国から輸入するのではなく、そうした教育手法も取り入れながら、あくまで日本文化を基盤にして、正解のない問題に対して合理的な解を、協働で探究し、導き出せるような21世紀型の教育を、教員と学生で創造して、海外にも発信していきたいと考えている。将来的には、現場で活躍されている教員の方々にもIBのWorkshopや公開講座などを提供していきたいと考えている。

都留文科大学合唱団・被災地支援クリスマスコンサート



往復に利用したラッピングバス



1日目 女川小学校お出迎え



女川小学校での合唱



女川小学校でのプレゼント抽選会



2日目 大川小学校見学



宿泊施設横の仮設住宅



2日目 大須小学校お出迎え



大須小学校での合唱



大郷町ママさんコーラス



大須小中学校の子どもたちと合唱団員



大須小学校での浜焼き



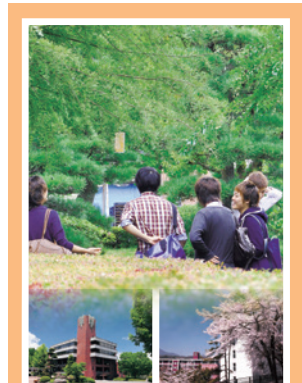
アーチでお見送り

本年度同窓会総会で提起された東日本大震災被災地への復興支援のため、全日本合唱コンクール全国大会 8年連続金賞に輝き、本年度については日本放送協会賞を受賞した本学合唱団が宮城県女川町立女川小学校・石巻市立大須小学校を訪れ、心の復興を目的に日本一の美しい歌声を披露し、被災した児童・生徒や地域の方々に励ましました。宮城県支部では、被災地支援クリスマスコンサート実現のために、実行委員会を組織し、綿密な計画の作成、会場準備、コンサート運営、合唱団宿泊所手配、昼食・朝食の準備等、支部の総力を挙げて取り組んで頂きました。合唱団の歌声は、復興への祈りとなり、被災者の励ましと心の安らぎとなりました。特に、大須小学校・中学校では、今年度末で閉校となるため、閉校記念事業を兼ねて行われ、大須小の児童や大須中の生徒、地域住民200人が集まり、コーラスの他、プレゼント抽選会、餅つき大会、昼食大会（餅バイキング・浜焼き等）が準備され、心温まる被災地支援活動になりました。合唱団や指揮者の清水雅彦教授には、大学を午前4時30分に出発し、バスで片道8時間近く乗車し、大学に翌日午後9時30分に到着するという強行日程で参加していただきました。

全国の同窓会会員の方々には、コンサートの様子を写真でお知らせいたします。

なお、被災地への往復に利用した都留文科大学ラッピングバスの費用については、都留文科大学会計より支援をいただきましたことを申し添えると共に、お礼申し上げます。

同窓会事務局



表紙(キャンパス内風景)
写真提供 経営企画課
企画広報担当